

## なからぎ

234号

2021年7月

## 言葉、そして、夢の途中

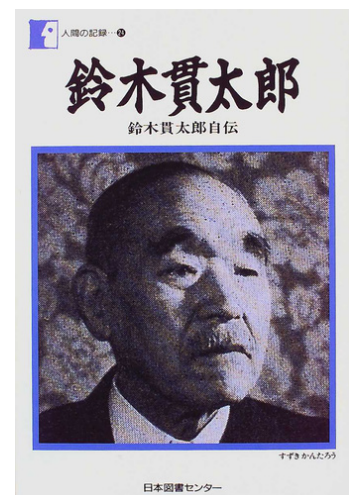
副学長 吉 富 康 成

「すべて移ろい行くものは、永遠なるものの比喩にすぎず。」(ファウスト；ゲーテ著、高橋義孝訳)。ここで、「比喩」を『般若心経』にいう「色」の如きものか、と訳者は注釈している。「永遠なるもの」という「言葉」が好きで、口ずさむことがある。

「民無信不立」、「巧言令色、鮮矣仁」、「温故知新」、(「論語」より引用)、「天時不如地利、地利不如人和」、「惻隱之心、仁之端也」、(「孟子」より引用)、も好きな言葉である。「永遠なるもの」を普遍性への憧れと見ると、「温故知新」とも通じるところがある。

最近、「コロナ禍のオリンピック、パラリンピック開催」を「インパール作戦」に擬える報道が出ている。これも、「温故知新」と言えるかもしれない。孔子は歴史をよく勉強していたと伝えられている。歴史の咀嚼の上に確かな歩みがある。We will get through this together. Be strong but be kind. この言葉は、ニュージーランドのアーダーン首相が、ロックダウンを伴う非常事態宣言発出に際して、国民に呼びかけたものである。「民無信不立」と「惻隱之心」に通じる心情の吐露と受け止めた。特に、but be kind が好きな言葉である。難局にあっては、リーダーに、心に響く言葉を渴望するものだ。第42代内閣総理大臣 鈴木貫太郎 (ポツダム宣言受諾時在職) は、組閣当夜のラジオ放送で、「国民よ我が屍を超えて行け」という言葉を発している。その真意を、「第一に、(中略) 機を見て終戦に導く、そうして殺されること。(以下略)」(鈴木貫太郎自伝より抜粋)と語っている。江戸末期生まれ、海軍出で侍従長を務め、77歳で内閣総理大臣となった人物の気骨が伝わってくる。

私は、39歳で会社員から学者に転身して、「人間とコンピュータのコミュニケーション、意志決定支援」の研究を続けてきた。普遍性、一般性、発展性が研究の価値とされている。「永遠なるもの」に通じる。「少年易老學難成」の心境ではあるが、「夢の途中」と思うことにしている。学生時代には、毎年100冊程の本を読んだ。今でも、本を読むのは好きである。人権侵害(いじめ、コロナ関連を含む)、自殺願望、に係るネットパトロールを10年ほど行ってきた。親身になってくれる存在をネットに求めている方がおられる。風雪に耐えて残る本の中の言葉の中に、生きるヒントが見つかると思っている。「永遠なるもの」にも通じる英知に出会えるかも知れない。



『鈴木貫太郎自伝』  
鈴木貫太郎 著、  
日本図書センター、1997年  
(請求記号 289.1/S)

## 「すごい」がそこまですごくない世代に向けて、ちょっとすごい経験を綴ってみた

環境デザイン学科 長 野 和 雄

この「なからぎ」の読者の多くは府大の学生の皆さんだと思います。昨年、卒業研究の一環で、ウェブアンケートにご協力いただきました。その節はありがとうございました。

このときは、すべて「はい」「いいえ」の2択質問でした。選択肢が少なくて答えやすい場合もあれば、必ずどちらかを選ばないといけないという状況は、質問によっては答えにくいこともあったのではないのでしょうか。なので、間に「どちらかといえばはい」「どちらかといえばいいえ」を付けて4択にしたり、「どちらともいいえない」を入れて5択にした方が答えやすかったかも知れません。

一般的に、こういう中間の選択肢があると、日本人はそればかり選びがちと言われます。少し話がそれますが、公共の建物を建てるときには、設計に民意を反映させるため、市民参加型のワークショップが開催されることがあります。そんなとあるワークショップに縁あって参加したときのこと。その日は7~8人のグループに分かれ、参加者がそれぞれ熱い思いを述べ合いました。とはいえ、敷地や予算、法規など制約もあるので、何でもかんでも設計に反映できる訳ではありません。そこでファシリテータ役のAさんが、同じグループに入っていた市のまちづくり課のBさんに確認を取ろうと質問したところ、その返答は、

「それについては決定していま…s…」

語尾が消え入って、「す」なのか「せん」なのかわからず、Aさんが思わず聞き返します。

「はい!？」

「それについては決定していま s」

やはり無声音で「スィー」としか聞こえません。

「…あ、あの一、どっちですか？」

「決定していま s」

グループ一同、目を見合わせ口あんぐり状態です。やがて別の参加者がしびれを切らして参戦しました。

「すみません、よく聞き取れないので、イエスカノーかで答えてもらえませんか？」

「決定していま s」

脂汗をにじませながら答えるBさんの、「す」にも「せん」にも聞こえる発音技術がどんどん上手くなっていきます。

「…えーと、わからないならわからないで構わないんですけど…わからないということでしょうか？」

「…決定していま s」

うーん、ここまでくるとすごい。私の人生の中で、これほど曖昧な返答を聞いたことは後にも先にもなく、もやもやを通り越して感心してしまいました。ただ、このときの議論が硬直したのは言うまでもありません。

Bさんの例は極端でしたが、そんなどっちつかずの返答をしがちな国民性を好意的に捉えた本が話題になっているそうです(ルース・マリー・ジャーマン『日本人がいつまでも誇りにしたい39のこと』あさ出版、2018)。ノーとはっきり言わずに「調整してみますのでしばらくお時間下さい」のように答えるのは、要望に可能な限り応えようとする日本人の美德の表れなんだとか。よくある日本礼讃本ですが、一つの見方を提供しています。

話を戻します。アンケートでは7段階のものよく見かけます。例えば、何かの印象を

「非常に良い・かなり良い・やや良い・どちらでもない・やや悪い・かなり悪い・非常に悪い」の中から一つ選ぶというものです。でも、「非常に」と「かなり」の意味が近く、どちらを選べば良いか悩むことがあります。

ほかにも、他大学のある先生が言うには、「アンケートをしたら、学生に『やや』ってどういう意味ですかって言われた」んだそう。意味がわからない人なんているの？と思わなくもないですが、誰にでも答えやすいアンケートにするには言葉を換えたところです。

候補には「少し」「ちょっと」「多少」「どちらかといえば」などがありますが、それぞれどれくらいの程度を指すのか。「ちょっと」なんて本当にややこしくて、辞書には「わずか」「少し」とともに「かなり」も記載されています。それを前後の繋がりだけでなく話し方でも判別しないといけないので、日本語を学ぶ留学生泣かせの言葉だそうです。確かに、「それはちょっと・・・」は全力で拒絶しているように聞こえますよね。これも、先の著者に言わせれば、ストレートに言って相手を傷つけないようにする日本人の美德なのかも知れません。いろんな文学作品や映画一つとっても、そうした文脈や声色から機微を感じ取る面白さがある訳です。

しかし、アンケートデータをいろいろ計算しようと思ったら、機微を読むなんて曖昧なことではなく、一つひとつ程度の高低をはっきりさせないといけません。そこで本題の方のアンケートを一旦お休みして、言葉そのものを調査しました。詳細は省きますが、興味を引いた結果を一つ紹介します。それは、「すごく」の意味の強さが、団塊の世代に当たる1969年当時の大学生を対象とした調査結果よりも弱くなっていたこと。団塊世代の先生にこの話をしたら、合点がいく様子でした。

方言に目を向けると、「でら」「ぶち」「ちかっば」など、very を指す言葉は実に多彩です。関西だけでも「むっちゃ」「めっさ」「ごっさ」「ばり」などがあります。これらに

ついても関西在住の20代と60代を対象に調べると、感じている意味や使用頻度の世代差はより明確でした。「非常に」「やや」などは少ししかしこまっていますが、「すごく」はいつでも使いやすく、方言はそれこそ普段から頻繁に使います。あまりに頻繁に使うようになると、強調の言葉も普通になってきて意味が薄れてしまう、それで違う言葉が誕生し、たくさん使われて、また意味が薄れて廃れていくので、移り変わりが早いのではないのでしょうか。一過性の流行語はもちろん、定着した感のあった「超」も以前ほど聞かなくなりましたし。

副詞とは違う言い方でも、「美人過ぎる○○」が瞬間的に使われてすぐ消え、最近「感謝しかない」のように「しかない」にポジティブな言葉が結びついた強調表現をよく耳にします。感謝以外の可能性を全否定してこれ以上の強調は難しそうですが、廃れたら次はどんな言葉が流行るんでしょうね。

こうして意味が薄まることを「言葉のインフレ化」というんだそうです。言葉の意味を貨幣価値になぞらえた上手い表現だと思いましたが、経済現象としてはインフレが永遠に続くことはなく、デフレもあります。そういえば、「普通においしい」って、全然普通じゃなくおいしいときに使うのも流行りましたね。先ほどの「ちょっと」といい、これってもしかして、「言葉のデフレ化」？

興味は尽きませんが、本題をほったらかしのままでもいけません。またアンケート調査をするので、そのときは是非、ご協力の程を。



『日本人がいつまでも誇りにしたい39のこと』  
 ルース・マリー・  
 ジャーマン 著、  
 あさ出版、2018年  
 (請求記号 361.42//J)

## 夏休みに英語力アップ！

# ～英語多読学習用 (Macmillan Readers) の電子ブックが利用できます～

### 英語多読とは？

英語で書かれた本を辞書を使わずにたくさん読むことで、英語力をみがく学習法です。継続して多くの英語に触れることによって、英語読解力の向上が期待できます。この夏休みは、自分の英語の力に応じて自分のペースで行える英語の多読にチャレンジしてみたいか、やさしめのものをたくさん読み、長く楽しく続けることがポイントです。

### 英語多読の三原則

- その1 辞書を引かない (引かなくてもわかるレベルの本を選ぶ)
- その2 わからないところは読み飛ばす (わかるところをつなげて読む)
- その3 つまらなくなったらやめる (もっと面白い本を探す)

### 多読図書を読むには

図書館では、英語多読用の電子ブック Macmillan Readers (マクミラン リーダーズ) を所蔵しています。学内・学外を問わず、場所や時間の制限なく利用ができ大変便利です。99タイトルが収録されており、おなじみの古典から映画にもなった最近の話題作まで多彩なセレクションが揃っています。レベルは、starter level 1から upper intermediate level 6まであり、あらゆる学習者の英語力に対応しています。

### どのレベルから始めたらいい？

辞書なしでスラスラと読めるような、自分のレベルよりも少し低いものを選んでください。自分の学習レベルがわからない場合は、Macmillan Readers レベルチェックテストによって確認することができます。

レベルチェックはこちら→

<http://www.macmillanreaders.com/level-test/>



〈利用対象者〉 本学の学生および教職員

#### 〈アクセス方法〉

図書館 HP トップ > 電子ブック

The screenshot shows the Kyoto Prefectural University Library website. A red box highlights the '電子ブック' (eBooks) link in the 'データベース' (Database) section. An arrow points to the '電子ジャーナル・電子ブックリスト' (eJournals/eBook List) page. On this page, 'Maruzen eBook Library' is selected, and an arrow points to the 'Go' button. Another arrow points to the 'ブックタイトルから読みたい本のタイトルをクリック' (Click the title of the book you want to read from the book titles) instruction.

#### 〈学外での利用手順〉

1. 上記手順で読みたい本のタイトルをクリック
2. Maruzen eBook Library でフルテキストを見る → Go
3. 「学認アカウントをお持ちの方はこちら」をクリック
4. 所属機関「京都府立大学」を選択
5. ユーザ名とパスワードを入力しログイン  
※全学認証 ID はキャンパス Web システムや情報処理室の端末にログインする際に使用するものです

Two screenshots of the login process. The first, labeled '手順3' (Step 3), shows the login page with a red box around the '学認アカウントをお持ちの方はこちら' (Click here if you have a campus account) link. The second, labeled '手順5' (Step 5), shows the login form with a red box around the 'ユーザ名' (Username) and 'パスワード' (Password) fields.

**同時アクセス数は1のため、利用後は必ずログオフしましょう**

## K-Libnet (ケー・リブネット) の利用について

京都府図書館総合目録ネットワーク (K-Libnet) とは、府大図書館と京都府内の公共図書館や読書施設等との間で運行する連絡協力車を利用して、図書の相互貸借 (貸し借り) を行うサービスです。本学の学生、院生、教職員の方は、学習・研究に必要な図書が府大図書館にない場合、**無料で図書を取り寄せることができます**。カウンターに備え付けている K-Libnet 利用申込書に必要な事項を記入の上お申し込みください。

### 【資料の検索】

K-Libnet 専用の蔵書検索 (京都府図書館総合目録・図書) をご利用ください。

<https://www.library.pref.kyoto.jp/cross/cross.html>

蔵書検索はこちら→



### 【取り寄せにあたっての注意事項】

- ・お申込み前に府大図書館ホームページの 3 館合同蔵書検索システム (OPAC) で、所蔵していないことを確認してください。
- ・取り寄せには 5 日～10 日間程度かかります。新刊本や貸出中等、相手館の諸事情により謝絶される場合があります。
- ・取り寄せできる図書は一度に 5 冊まで、府大図書館内または学内でのご利用となります。
- ・貸出期間は 2～3 週間程度です (相手館により異なります)。

## ○教員著書ご寄贈のお願い

図書館では、教育・研究・学習活動に必要な学術情報を提供するために、蔵書の充実を図っております。先生方のご著書をできるだけ網羅的に収集し、本学の教育研究活動の成果として公開しておりますので、著書・編書等を出版された折にはぜひともご寄贈をお願いいたします。

\* 発行の折に 1 部の寄贈をお願いいたします。(現在、複本は原則として受け入れておりません。)

\* ご寄贈いただいた図書は「府大教員著書コーナー」に配架し、閲覧・貸出に供しております。

\* 学内便でご送付または、直接お届けくださる場合は図書館 2F カウンターまでお持ちください。



### 【お問い合わせ・送付先】

京都府立大学附属図書館 資料担当

TEL : 075-703-5129 (内線 : 5129)

shiryo@kpu.ac.jp

## ○研究個室の利用について

図書館では、学生の皆さんの学習、教職員の皆さんの研究を支えるため、研究個室を10室備えています。新型コロナウイルス感染症の影響により、これまで利用を休止していました。

その研究個室ですが、7月1日から利用を再開しましたので、是非ご利用ください。(※グループ研究室については、3密となるため引き続き利用不可)

なお、ご利用に当たっては、以下のことにご留意願います。



### ◎研究個室利用上のルール（感染症拡大予防のための対策付加）

#### 【予約受付】 電話075-703-5130

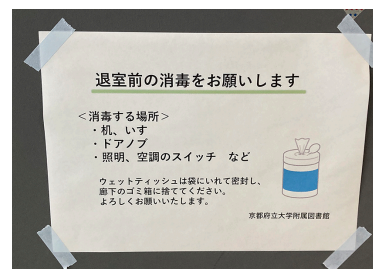
- ・カウンターで直接又は電話で受付（予約システムの利用不可）
- ・利用希望日の30日前から、当日は閉館時間の90分前まで

#### 【利用方法】

- ・カウンターで利用者の検温実施
- ・職員が個室のドア解錠
- ・利用後、カウンターへ申出  
(利用後の個室は、その後1時間は消毒・換気のため使用不可)

#### 【1日における利用時間】

- ・学生は3時間、教職員及び名誉教授は6時間まで  
(空きがあれば、同時間延長可能。ただし、閉館時間30分前まで)



## ㊦1年生のための図書館基礎知識～図書館用語集

Ms. 司書：これまで連載してきた Mr. 司書シリーズ…好評だったので私が続けたいなど。

新入生：是非お願いします。これが楽しみで入学したようなものだし…（ホントに？）。

Ms. 司書：ありがとう（笑）。これからも気軽に図書館に足を運んでね。

新入生：はい！ところで、図書館はいろいろな用語が溢れていて…特にローマ字、その意味が少しでも解ればもっと利用しやすくなるんじゃないかなあ。

Ms. 司書：そうだね。それじゃあ、主な用語の意味を簡単に教えるね。

用語	説明
ISBN	図書ごとに付与される固有の番号（国際標準図書番号）のこと。
NDC	図書分類法の一つで、日本十進分類法のこと。
OPAC	コンピューター上利用できる目録情報データベースと、その検索システムのこと。
FNS	図書や雑誌論文、電子資料等の学術情報を、本学図書館及びオンラインの情報源から見つけ出すポータルシステムのこと。統合検索 Fudai Nakaragi Search の略。
NACISIS-ILL	国立情報学研究所が提供する文献複写、資料の相互貸借を支援するシステムのこと。

新入生：なるほど分かりました。ありがとうございます。それじゃあ、あとは受付カウンターの方に顔を覚えてもらったら完璧ですね。

Ms. 司書：そうだね。何かいいことあるかもね。